

春日部福音自由教会 2020年8月30日 11:00 中央会堂礼拝（同時配信）  
聖書 新約聖書 マルコの福音書 8章 34節～38節  
説教 「あなたはわたしのもの」 小野信一牧師

おはようございます。かなり暑いですが大丈夫でしょうか、室内の気温は。冷房をかけながら窓を開けているのですが、こっち側が寒くてこっち側が暑いということがあるかもしれませんが、空気の流れを作りながら、と思っています。大丈夫でしょうか。もし必要なら風を強くするなど調整していただければと思います。

今日は洗礼式を行うことになっています。“イエスとは誰だと信じるか”という問いに答えて、心に頂いた信仰を口で告白する時です。そして水の中に入って出てくるということによって、体で古い人が死んで新しく生まれた人間としてこれから生きていくことを言い表す時でもあります。証しと信仰告白の時です。キリストとの契約に入れられ神の家族となる時です。二人の兄妹姉妹が洗礼を受けようとしています。どうぞお祈りに覚えて共に喜びましょう。そして他にも洗礼を受けたいと願っている仲間たちがいましたので、これからまた次の機会以降に洗礼に導かれるようにぜひお祈りいただきたいと思います。

今日のみことばはマルコの福音書 8章 34節から 38節までです。今日は「あなたはわたしのもの」と題してみことばを取り次がせていただきます。共にもう 1度祈りをささげましょう。

天にいらっしゃる私たちの父なる神様。あなたの御名をあがめます。今日主の日、あなたの前に出て礼拝をささげます。賛美をささげます。そして今みことばを聞きたいと願っています。この礼拝堂において、またそれぞれの家に於いて礼拝をささげ御前に出ている私たちを、一人一人を、あなたが今、目に留め心に留めてください。そしてあなたの御声を聞かせ、あなたのみことばを聞かせ、あなたのお心を教えてください。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。

## **I ついてきたいと望むなら**

ペテロが「あなたはキリストです」という信仰の告白をしました。「わたしを誰だと言いますか。」イエス様が問いかけられたのです。イエスとは誰なのか。それに対してペテロが「あなたはキリストです」と答えました。そこからイエス様がキリストであるということはどういうことなのか、ということをお話され、そして今日の 34 節のところからは今度は “キリストの弟子であるとは” というところに話が進んでいます。

キリストの弟子とはイエス様の後ろからついていく人のことです。自分のいのちを自分のものとしなない人のことです。自分の前に置かれた十字架を背負う人のことです。「自分を捨て自分の十字架を負い、わたしについてきなさい」とキリストが言われます。まず 34 節のところ、イエス様は 12 弟子だけではなくて、群衆も呼び寄せたと書いてあります。12 人の身近な弟子たちだけでは

なくて、その周辺にいる、ご自分に従って来て、ついて来て、またみことばを聞いてきた、より多くの人たちに向かってかってイエス様は言われます。皆に呼びかけるのです。「誰でもわたしに従って来なければ」って言われます。「わたしの後ろからついて聞きたいと望むのなら」と言われる。群衆に向かって話しかけて、「わたしについてきたいと願うか」「あなたはそれを望むか」と、意思を確認するのです。イエス様が一人一人に、群集、人々の中にいる一人一人に、その意志を問いかけておられます。“誰でもついてきたいと思うなら” あなたはついてきたいと思うか、その意思があるか、と問いかけます。そうであるならそういう人はこうしなさいと言って、このあと話をされるわけです。

さてまず私たちもイエス様が言われた言葉を聞いて自分もイエス様に従っていきたいという意思、願いを持っているかどうか、自分の心確かめてみたいと思います。イエス様に従っていく道とはどんなことでしょうか。その道に行く、それはもしかしたら自分が望む道を歩めなくなることなのじゃないかと思う人がいるかもしれません。つまり一方にイエス様についていくという道がある。そして自分の行きたい道を行くっていうのは全く別の道、右と左に分かれるような、東と西に違う方向に向かうという風にして捉える、ということがあるのではないか。自分のしたいことをしたいという思いがあるかもしれません。好きなものを食べたい、でもそれはイエス様についていく道とは反対かもしれない。好きな音楽を聴きたい、好きな音楽を奏でたい、自分の好きな絵を見たいとか描きたい、あるいは自分の望む仕事をしたい、自分の人生の中で志すことを目指していきたい、取り組んでいきたい。そういう風に自分の願いを持つことはイエス様についていく道とは反対なのだろうか。そうであつたらどうしたらよいのか、と迷うかもしれません。つまり右と左に引き裂かれるような思いがする。でもイエス様についていくっていうのはそういうことでしょうか。もしかすると私たちは、イエス様が言われている言葉を聞いて正しく受け止める時もありますし、勘違いして受け止めてしまう時があるかもしれません。が、イエス様について行くということと自分の大事な物を大事にするっていうことを、なんでもかんでも、対立的に反対の方向なのだっていう風にとらえないように気をつけなければならぬとも思います。何かを食べる、何かをする。何をしても、何を食べても、また食べなくても、私たちはその道でイエス様の背中を見てイエス様の足跡をたどって歩むのです。何をするにも、どんなわざをなすにも、どんな仕事をするにしても、イエス様の足跡をたどって、イエス様の背中を見て後ろからついていくのです。イエス様について行く道っていうのは、例えば職業選択の色んな道の中で、この道を選べばイエス様についていくことになる、でもそれ以外の道は違う、という風に必ずしも考えなくても良いでしょう。イエス様の足跡を辿らない道など無いのではないのでしょうか。 私たちが人生の中でどんな道を進んでも、その道でイエス様の背中を見て、イエス様の歩んだ道についていくのです。ある人は日曜日に出勤するとか緊急に出勤するとかいう仕事をする人がいるかもしれません。医療従事者の人たちもそうです。でもそれが御心である時に、もしかしたらその道を行きながらイエス様についていく、とい

うこともあるかもしれませんが。私たちがイエス様のお心を教えていただくということはとても大事なことです。イエス様がこの道を歩みなさいと言われるならば、私たちはその道を進んで、そこでイエス様についていきます。「誰でもわたしについてきたいと望む人ならば」、とイエス様は言われます。あなたの心はどうか、あなたの意思はどうか、ということが問われています。

## Ⅱ 自分を捨てる

イエス様は続けてこう言われます。「その人は自分を捨てなさい」と言うのです。これはどういう意味でしょうか。「自分を捨てなさい」と言われると、自分自身の存在、自分自身の人格、自分の人生を、例えばどぶに捨てるように、ゴミ箱に捨てるように、こんなの大事じゃないのだと考えて、ゴミ箱に捨てるように言われている、というふうに思うことがあるかもしれません。イエス様が言われたのはどういう意味なのでしょう。この言葉を、「自分を捨てる」という言葉を直訳しますと、自分自身を自分のものと言わない、という意味であるようです。自分を自分のものだと言わないということです。英語で言うと“disown”という言葉ですが、own というのは所有する、オーナー持ち主、ownership、それは自分のものであるということです。私たちにとって自分の人生は自分のものであるということは、ある意味で大事なことです。他の誰のものでもない、他の誰の責任でもない、自分の人生を自分の責任で生きる、というのは大事なことです。つまり自分の人生を、人任せにしたり人のせいにしてしまったりしないということです。神様のお与えになったたった一つの人生を大切に精一杯に生きるということです。当事者として生きる。オーナーシップっていうのは持ち主である、ということですが、一方で自分のいのちを大切に生きていくということがあります。けれど一方でイエス様はここでこう言われました。「自分を捨てなさい」と。その意味は自分自身を“自分のもの”と言わないということです。Disown ということです。Own ということは、この人生、この私、このいのちは、私のものだと言うことです。Disown はその反対で、この私、この人生、このいのちは私のものではないということなのですね。これは二つの相矛盾することのようです。どっちにしたらいいのだろう、どうしたらいいのだろうって迷うかもしれません。でも私たちはこの二つを、両方を同時にしていくのです。「神様私のいのちはあなたのもので、この私はあなたのもので。」と言えばいいのです。自分自身を自分のものと言わない。じゃあ何なのか、それは神様のものだということです。神様が私たちの造り主です。洗礼式においては信仰の告白をして頂きます。一人一人の証がありますが共通の告白があります。その最初は造り主である神を信じますか、ということです。私は造り主を信じる、この私は造り主に造られたものだ、この世界は造り主によって造られて存在しているのだ、と信じます。造り主が私を造ってくださったと信じる、このいのちは神から来ていると信じます、という信仰の告白ですね。つまり所有者は神様。私のいのちの源、造り主、所有者は神様である。そして神様から預かって、使用者あるいは運用者として自分がある、というような捉え方が出来るでしょう。預かり物と

して自分のいのちを生きる、という捉え方をすることができます。自分を捨てなさいと言われると、あなたの意思とかあなたの願いとか、あなたの志やビジョン、そんなものは大切じゃないのだから捨てて良いのだ、とされていると思うかもしれませんが。でも神様は、あなたは大切じゃない、だから捨てても良いものなのだ、と言っているわけじゃないですよ。神様は一人一人のいのちを大事なものだと思っています。

### Ⅲ 十字架を負う

次に進みたいと思います。次にイエス様が言われたことは「自分の十字架を負いなさい」ということでした。「誰でもわたしの後ろをついてきたいと望むなら、その人は自分の十字架を負いなさい。」私たちは目の前に置かれたものをしっかり背負っていくべきです。十字架にかけられて罪人の代わりに、身代わりになって死ぬ。それはイエスさまがしてくださったこと。私たちが洗礼式において為す信仰の告白の一番大事な点は、この十字架と私。イエス様が私たちのために代わりに死んでくださった、イエス様の十字架は私のためだった、という信仰の告白です。自分の十字架を負うというのはイエス様のように死刑になる、必ずしも文字通りそうなるということではないでしょう。でもイエス様が歩まれたように歩む。誰かの荷物を背負い誰かを助け、ある時は人の荷物を背負って歩む。それが十字架を負うということでしょう。目の前に、私たちには背負うべきものがあります。年齢を重ねて成長するに従ってそれはだんだん見えてきますし、年々増えていくのかもしれませんが。中学生には中学生に、高校生には高校生に、大学生には大学生に、そして大人になれば、それぞれ今、頑張るべきこと、取り組むべき事ってというのが次々現れてきます。身に付けるべきものがあります。そして通り過ぎるべき道がある。その一つ一つを通って行きます。一つ一つ背負っていくのです。選んでする時もあるでしょう。いつのまにか知らずに負う時もあるし、強いられて負う時もあります。例えばイエス様が十字架を担いで、その刑場まで歩いたときに、もうこれ以上歩けなくなった。その時クレネ人シモンという人が代わりに十字架を負えと命じられて背負います。その時そこにいた人が背負わされるということがあります。選ぶにしても強いられるにしてもどちらでもよいでしょう、ただ私たちは目の前に置かれたものを負うのです。逃げずに負うのです。「わたしについてきたい、そう願うなら、自分のいのちを自分のものと言わず、負うべきものを負って、わたしの背中を見て同じ道を歩きなさい、わたしが歩いた道を歩みなさい」とイエス様は言われます。イエス様がご自分を捨ててくださった。私たちも自分を自分のものと言わないで、イエス様私はあなたのものです、と言いつつ進んで行きます。イエス様の歩いた道を同じように歩く。そのように私たちは呼ばれています。それがイエス様についていくということですね。従っていくということです。

### Ⅳ イエスの歩いた道

そのためにはイエス様がどんな道を歩いたのか知らなければなりません。皆さんはイエス様が歩いた道というのはどんな道だったと覚えているでしょうか。いろいろな答えがあると思いますけど、イエス様の歩んだ道はどういう道だったか、どんな答えが、どんなイメージ、ビジョンが、思い浮かぶでしょうか。わたしたちはそれを思い浮かべながら、その後ろをついていかなければならないのです。例えばこう思うでしょう。十字架の道。イエス様の道は十字架の道だった。ペテロは信仰の告白をした時に、イエス様がこれから苦しみが待っていると聞いたのを聞いてそんなことはありません、と否定してしまったのですよね。ペテロたちは苦痛のない栄光、屈辱のない勝利をキリストが収められるのだ、と期待していたのかも知れません。でもイエス様は「違う」と言われました。「わたしは多くの苦しみを受け、捕らえられて捨てられ殺されるだろう」と言われたのです。イエス様の道はへりくだりの道です。歩めば歩むほど下に降りていく道です。歩んだ分高く上がっていくのではないのです。降りて行くのです。イエス様の道は辱められ捨てられる、恥をかかされる道です。私達はそういう風に思うと、イエス様の道を行く、そんな道いやだな、その十字架を背負うのは嫌だなんて思うかもしれません。

でも一方でイエス様の歩んだ道はこういう道でもありました。弟子たちと旅をし、一緒に食べ、飲み、泊まる旅の道でした。そしてそこで人を助け、人と出会い、人を喜ばせる道でした。イエス様の道は誰かの友となる道でした。例えばラザロという人、その姉妹のマルタとマリアっていう人がいましたね。イエス様は彼らのところを何度も訪ね、友となっておられたのです。

またイエス様の道は悲しむ道でもありました。友が病になり、また友が死んでしまった時にそれを悲しみ涙しました。イエス様の道は愛する道、愛を貫く道でした。苦しくても愛し抜くことを選ぶ、損になっても愛し通す、それがイエス様の歩んだ道でした。私達もイエス様の道が愛を貫く道なのだと思った時に、それが苦しいことだとしてもこの道を歩き通したいと思うようになるかもしれません。それはイエス様の歩んだ道です。この道をあなたも歩め、と主が私達を呼んでおられます

## **V 全世界より重いのち**

35 節から 37 節のところではイエス様は自分のいのちを自分で救わなくてよいということをおっしゃいました。35 節、「自分のいのちを救おうと思う者はそれを失うであろう。」「わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うであろう」。自分の益を求めな、自分のいのちを自分で救おうとしなくてよい、とイエス様は言っておられます。あなたのいのちを救うのはあなたではない。神様が、救い主が、あなたのいのちを救うのだ。自分のいのちを自分で救おうとするな、ということです。イエス様のため福音のために、自分のいのちを失うことを恐れるな、あなたは自分のいのちを救うだろう。

ここにある“いのち”という言葉はプシュケーという言葉なんですけど、サイコロジーっていう

言葉は英語では心理学って言いますよね、心の学問です。サイコロジー、その元になった言葉がブシュケーっていう言葉で、“いのち”とか“心”とか“たましい”というふうに訳される言葉です。ある意味でこれは“いのち”って言葉なんですけど、二つの意味で使われているかもしれません。その一つは私たちのこの体のいのち、身体的ないのち、肉のいのち、この世のいのちのことです。でもう一つはもっと深い、自分そのもの、その人そのもの、存在そのもの、たましい、というように呼ばれるもの。たましいそのもの、たましいのいのち、あるいは永遠のいのちと言ってもいいかもしれません。『もしあなたが自分のいのちを、この世で自分のいのち、肉をいのちを救おうと思うならば、あなたは大切ないのちを失うであろう。わたしと福音のためにあなたの肉のいのちを失うならば、あなたはもっと大切な自分そのもの、自分のたましいのいのちを救うであろう。』

36 節の言葉はフランススコザビエルが、座右の銘と言いますか愛唱聖句としていたみことばとしても有名です。「たとえ全世界を手に入れても自分のいのちを失ったら何の益があるだろうか。」「自分のいのちを買い戻すのに人はいったい何を差し出せるだろうか」というのです。たとえ全世界を手に入れてもいのちを失ってしまったならば何もならない。自分の存在そのもの、自分のたましいそのものを買い戻すために何を差し出せるだろうか。あなたの存在、あなたのいのちは全世界より重いのだ、尊いのだ、それを買い戻すには全世界でも足りないのだ。どんなものどれだけの富、宝、権力、立場を差し出しても足りない。あなたのいのちは重い、あなたのいのちは大切だ。私たちの造り主であるお方がいつもそう言ってくださいます。「自分を捨てなさい」それはあなたのいのちなんで大事じゃない、だから捨ててもいいということではありません。「自分を捨てなさい」それは自分のいのちを自分のものと言うな、自分のいのちを自分で救おうとするな、自分のいのちを自分で買い戻さなくてよい、という神様のお心です。あなたはわたしのものだ、わたしが贖いをするのだ、わたしが買い戻すのだ、と神様が言われます。

## VI この時代にあって

ちょっとそのことに触れる前に 38 節の所に目を留めておきましょう。「この時代にあって」とイエス様は言われました。姦淫と罪のこの時代、姦淫というのは不誠実ということです。「姦淫と罪のこの時代にあってわたしとわたしの言葉を恥じるな。」「わたしは栄光のうちに来る」とイエス様は言っておられます。イエス様が再び来られるその時が来るのです。今はその時が見えません。いつかは分かりません。でもその日が来ます。「わたしを恥じるな」、「わたしと共に歩むことを恥じるな」。この姦淫の時代、不真実、裏切って平気、自己中心で平気の時代にあって、わたしと共に歩みなさいとイエス様は言われます。

姦淫と罪とはどういうことでしょうか。罪というのは、神なしで良いと考えることです。神様なしでやっていける、神様なしでも大丈夫とってしまうこと。神なしで済ます時代に私たちはいるわけです。姦淫の時代というのは代わりの神で良い、代わりのもので済ませてしまう時代です。

旧約聖書のエレミヤ書に、1章から読んで行きますと2章のところに二つの悪という言葉があります(2:13)。神様のために二つの悪があった。それは何でしょう。一つは「わたしを捨てたことだ」と神様は言われます。もう一つは「代わりのものを自分で造り出す」ということです。壊れた水溜めを掘った、水を溜めることができない、役に立たない壊れた水溜めをあなた方は掘った、それがあなた方の二つの悪だと言うのです。エレミヤ書の次の5章の7節から9節のところにも同じような事が書かれています。一つは「わたしを捨てた」という過ちです。もう一つは「神でないものによって誓う」という間違いでした。そして神様はこう言われました。「わたしが彼らを満ち足らせると、彼らは姦通し遊女の家で身を傷つけた」。姦淫というのは男女の関係のこと。夫や妻がある人が他の人との関係を持つことを姦淫と言いますけれども、旧約聖書では、しばしば神様と人間、神様と神の民の関係で言われています。神でないものによって誓う、神でないものの前にひれ伏し拜む。これがあれば大丈夫、この世にあるお金だったり力だったり、他の誰かだったり自分で造り出した金の子牛や、石や木で造ったものであったり、そういうものに頼ることで。罪とは神を捨てること、大切な関係を大切にしないことです。そして身を傷つけたこともありました。自分を大切にしないようになる、それが姦淫と罪のこの時代です。そういう中でイエス様が自分を捨てて十字架を負ってわたしについてきなさいと言われます。

## **VII あなたはわたしのもの**

旧約聖書を一箇所読みましょう。

これは聖書交読で一緒に読んだところです。イザヤ書の43章の1節から4節。今日はマルコの福音書のみことばからではなくて、このイザヤ書の43章の1節から説教題をつけました。「あなたはわたしのもの」と主なる神様が言われます。「ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が、『恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。』」あなたはわたしのものなのだ、わたしがあなたを創造しあなたを形造りあなたにいのちを与えた。わたしがあなたを導きあなたを見守っている。わたしがあなたを造ったのだ。あなたはわたしのものだ、と神様ははっきりと語っておられます。

神様はこの1節から4節のところで、贖いについて語り、愛ゆえの身代わりについて語り、あなたはわたしのものだと語りかけておられます。神の民も、一人一人の人間も、元々神のものです。しかし失われたのです。迷い出てしまったのです。そういう人間を神様は愛するゆえに買い戻しました。取り戻そうとしました。先ほどのイエス様の言葉は、「人は自分のいのちを失ったらそれを買い戻すのに何を差し出したら良いだろうか」、全世界よりも重いあなたのいのちを買い戻せるのは何だろうかと言われていましたが、そのいのちを買い戻せるのは御子ご自身のいのちだけだったのです。

旧約聖書では「わたしはエジプトをあなたの身代金とし、クシュ（エチオピア）とセバをあなた

の代わりとする」と、他の国民をあなたのいのちの代わりにすると言われましたけれども、キリストは、いのちを買い戻すのに全世界でも足りず、ご自分のいのちで身代金を払って下さいました。贖ったというのは買い取った、買い戻したということです。元々自分のものだったものを代価を払ってもう一度買いとったと言うのです。そして神様は、再び「あなたはわたしのものだ」と言ってくださるのです。だから私たちは、自分自身をもう自分のものとしません。「神様、私はあなたのものです。神のものとして生きていきます。それがキリストについていく道です。私は神のものです」と告白して神のものとして生きていく、それが献身です。「神様、私はあなたのものです。あなたの良いようにお使いください」、そのように献身して歩んできた兄妹姉妹がこの春日部福音自由教会にはいます。1人1人、「私は神様あなたのものです」と告白してイエス様に従っていく、そして神様から預かっている預かり物として自分のいのちを使うのです。そのようにして私たちは限られたこの地上の人生を歩んでいます。そして預かり物としての自分のいのちを、この大切ないのちを使い終わったら造り主にお返しすれば良いのです。

今日洗礼を受ける兄妹姉妹も、今病と戦っている兄妹姉妹も、今日から地上の生涯の終わりまで、自分のいのちを神のものとして、神から預かった自分のもの、大切ないのちとして使い生きていきましょう。

神様が語りかけて下さいます。『あなたはわたしについてきたいと思うか。』『あなたのいのちは誰のものか。』『わたしはあなたが通ってきたすべての道を知っている。何が起こったかあなたがどんな思いでいるか全て知っている、わかっている。』『あなたはわたしのもので生きなさい、生きていきなさい。』『わたしがあなたの主、造り主、あなたの神ではないか。わたしのもので生きなさい。』『あなたが今通っているこの難しい状況の中でわたしと共に歩みなさい。』『わたしの背中を見て、ついて歩きなさい。』『わたしのそばにいなさい。わたしがあなたと共にいる。』『あなたはあなたのいのちを自分のものと言わず、わたしのもので生きていきなさい。』『あなたはわたしのものだ。』そう主が言って下さいます。「神様、主イエス様、私はあなたのものです。」そうお答えして歩んでいきましょう。 お祈りをいたします。

天の父なる神様。十字架の道を歩まれたあなたが、わたしについてきたいと望むなら自分を捨て自分の十字架を負って後ろをついて来なさいと言われました。私たちは自分のいのちを自分のものとせず、私はあなたのものですと告白してこの地上を歩みます。この地上で触れ合うものを、なすべきことを、背負いながらあなたの歩まれた道に従って参ります。どうぞ今日から地上の生涯を終えるその日まで、私たち一人ひとりを導いて下さいますように。あなたはわたしのもので、と言ってくださるあなたに、主よ私はあなたのものです、とお答えしてあなたのそばを歩いていくことができるように、どうぞ導いてください。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。